

(第3種郵便物認可)

ヤン・ミュルダル著
中国農村からの報告

「私たちは中
 国について、
 たこの意味は大いだが、もとよ
 里本書はきつしい調査報告書など
 かかれて、事
 ではなく、本書を手にした誰をも
 解放すべし、さて知り得た事実
 実を知らされ
 なかったと
 訳者の一人の
 三浦朱門氏
 は、氏の専門
 家としての著
 実な中国知識

中国農村の貴重なしポート

生活実態を克明に綴る

農民たちの「ありのまま」の姿を忠実に

中 嶋 嶺 雄

「中国農村からの報告」の興味深い語り
 をまとめたものである。成功したの
 であった。

柳林村は、延安に近い老解放区
 区」であり、今日でも貧しい農村
 であるが、本書には、一九三〇年
 代以降のこの村の歴史が、国民党
 府系の前衛軍の侵入や「陝西北
 部のわがらが偉大な英雄」・劉志
 丹率いる紅軍とそれを支える村民

ぶりを示す訳者「あとがき」のな
 かで述べている。中国について、
 いまほとんどの事実が知られてはな
 らない時期はないと私も考えている
 が、中国にかんする情報の氾濫に
 もかかわらず、そこにある種の「タ
 ブ」が支配的であるが肉体的知
 世界において、それはなお、かな
 り困難なことであるといわれはな
 るまい。それだけに、中国農村の

時間を取って耽読せずにはおこな
 い面白さリマリテに立ち滞ら
 ている。中国農村に生きている人間集
 団のあまやかなる風土が、これは
 と魅力的に読者をひきつけおま
 は、どこにあるのだろうか。

著者のヤン・ミュルダル夫妻
 は、一九六二年に、中国の一農村
 は、その中で世の變遷の中国通
 は、一ナリストとは決定的に異なる。鋭し、みずから詳細を直接に加配、社会、作業日数や労働量、

のすべとで、およそ三〇人の農民へ、
 「『伝道』の言葉、文
 字におりに受けとりすぎること
 ままに認めているのである。筆者
 はいまありのままにと決めた
 が、今日の中国にかんして、それ
 が、今日の中国にかんして、それ
 が、今日の中国にかんして、それ

の正直さと謙虚さのすべとを磨き
 て努力し、挑戦する。こうして、
 著者は、柳林村の人びとの「あり
 での生涯の歩み、恋愛や婚姻、村
 事の休息のこと、小児から老人ま
 での生活の歩み、恋愛や婚姻、村

の一般的な状態を知ることができ
 る。本書の抄訳は八年前に筑
 摩書房から新装版で刊行されたこ
 の姿は、いすも同じと知ることが
 できる。村でもどこでも変わらない
 共産党の指導のせいだとはいわず
 「陝西西北部の者は、河北や、広
 東の山東や、江蘇や、福建の人た
 ちと人間がちがうから」と目撃
 する田園の痕跡に強き意識をも

「毎日見聞する」。しかも著者は中
 大の卒業と経歴を隠かく見せず、
 田の安全と幸福を願う見守り、こ
 いるのであり、それだけに貴重な
 しポートなのである。本書にもこ
 てゆへ。ここの事実の整理のな
 かく、譯者は、柳林村から北京へ
 上京したこのある者は村の党書
 八年の「大躍進」政策挫折後の農
 村の姿があまり描かれていない
 へさへ入かへし行かたこととど
 のをなつてお茶も貴重でめった
 生きたい体験については、またそ
 れを語る準備をもちあわせてい
 ったのであろうか。

ウー・チン「経済学者で『アジア
 』、またこの学校へ行かたらの
 の下ラマーズや「世界の貧困」の挑
 戦に深く関与して来た著者の著書
 ンナー・ミュルダールの息子とし
 て一九二七年に生まれたライター
 であり、本書の抄訳は八年前に筑
 摩書房から新装版で刊行されたこ
 とがある。(三浦朱門・鶴羽伸子
 訳、四六判三五頁・九八〇円
 ・中央公論社。) (なかま・みね
 氏「東京外国語大学助教授・國
 際関係論・現代中国学専攻」)

生活実態が克明に描かれた大きな (陝西省延安市に近い柳林村に「ナリスト」とは決定的に異なる。鋭し、みずから詳細を直接に加配、社会、作業日数や労働量、